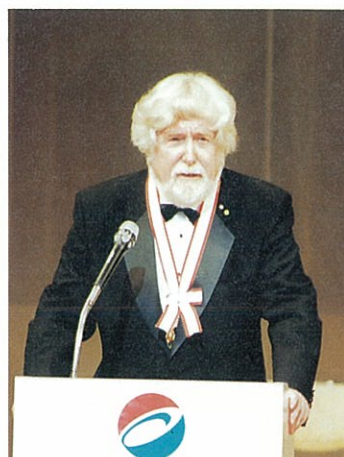


学術研究賞・国際部門

氏名 クリフォード・ギアツ
(Clifford GEERTZ)
生年月日 1926年8月23日(66歳)
国籍 アメリカ



プロフィール

サンフランシスコに生まれたギアツ氏は、オハイオ州のアンティオク・カレッジで文学と哲学を学んだが、より実証主義的な学問に興味をもつようになり、ハーバード大学大学院へ進学、文化人類学を専攻した。1952～54年にインドネシアのジャワ島で最初のフィールドワークを行い、その成果を帰国後『ジャワの宗教』と題した著作にまとめ、博士号を取得。その後、ハーバード大、カリフォルニア大、シカゴ大等で教鞭を執る。また、その間、バリ島やモロッコでも調査を重ねて、顕著な業績を発表し続けた。1970年、プリンストン高等研究所社会科学教授に就任、現在に至るまで精力的に研究活動を続けている。

ギアツ氏の研究領域は、政治・経済・歴史・宗教・社会変動を含む広範多岐にわたっており、その影響力は人類学界のみならず広く他の人文・社会諸科学に及んでいる。アジア世界の文化をいかに理解するかという課題について徹底的な思索を積み重ね、「文化」を「意味のシステム」として解釈する独自の「解釈人類学」を提唱し、同時代における最も独創的かつ刺激的な人類学者という評価を得る。19世紀のバリ島を素材とする著書『ヌガラ』で提出された「劇場国家」の概念は、日本においても大反響を巻き起こした。

また、数々の学術雑誌の編集の任務をこなし、アメリカ国内はもとより英国人類学会をはじめとする国外研究機関の学術顧問を歴任する等、氏の活動領域は国際的な規模に及んでいる。

主な著作

- 『ジャワの宗教』 グレンコ (イリノイ州), 1960
- 『農業の退縮——インドネシアにおける生態学的変化の過程』 バークレイ, 1963
- 『行商人と貴族——インドネシアの二つの町における社会変化と経済の近代化』 シカゴ, 1963
- 『インドネシアのある町の社会史』 ケンブリッジ, 1965
- 『イスラムを観る——モロッコとインドネシアにおける宗教の展開』 ニューヘブン (コネチカット州), 1968 (邦訳『二つのイスラーム社会』1973)
- 『文化の解釈』 ニューヨーク, 1973 (邦訳『文化の解釈学 I・II』1987)
- 『バリの親族体系』 (共著) シカゴ, 1975 (邦訳1989)
- 『ヌガラ——19世紀バリの劇場国家』 プリンストン, 1980 (邦訳1990)
- 『ローカル・ノレッジ——解釈人類学論集』 ニューヨーク, 1983 (邦訳1991)
- 『作品と生——著者としての人類学者』 スタンフォード, 1988